

## 聖木曜日・主の晩さんの夕べのミサ

### ■ミサ

I 出エジプト 12・1-8、11-14

II 一コリント 11・23-26

福 ヨハネ 13・1-15

今日夕方から教会は聖なる三日間の典礼に入ります。主の晩さんの夕べのミサは主の最後の晩さんを記念し、その中で主がミサと祭司職の制定をされたことを思い起こし、主イエスが奉仕の模範として弟子の足を洗われたように私たちもお互いに愛し合うことができるよう心併せてお祈り致したいと思えます。

今日の第一朗読はミサの原点である過ぎ越祭のルーツが読まれます。神がエジプト人を滅ぼすとき、家の入口の二本の柱とかもいに塗った小羊の血を見てイスラエルの民を過ぎ越し、エジプトから救い出された一連の出来事が思い起こされます。イスラエルの民はこの出来事を子孫に伝えるよう神から命じられ、その記念が過ぎ越し祭です。

福音には主イエスが弟子と共に過ぎ越し祭を行う様子が書き記されています。まさにその最後の晩さんで、イエスはご自身が過ぎ越しの小羊になると弟子たちにお伝えになりました。そして新しい契約として感謝の祭儀を定め、愛の掟を命じ、これを記念として行うよう弟子たちに命じられました。そして、模範として弟子たちの足をお洗いになりました。

この非常事態において、主の食卓に囲みこの晩さんを記念することができない兄弟姉妹の思いを察しながら、皆さんが家族と共に食卓を囲み、日々の愛を確かめ、より深めていくことができますように。